

# たぐろ

TAKUSUI  
No. 709

11  
November.2015

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



ズワイガニ漁解禁 (新温泉町)

## 松葉ガニ漁 解禁

## 第35回 全国豊かな海づくり大会 富山大会

《今月の海上安全標語》～ 副次的効果!～

JF兵庫漁連が開発した浮力合羽。よく浮きます!!

使用している方から聞くと別の効果もあるようです。これからの季節にどうぞ!

**寒ければ 一度着てみよ 浮力付き  
風を通さず 冬は暖か**

では、今月も安全操業で!

# ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。  
主に船を直進させるときの手合として使われる)

## 習慣の代替え

但馬漁船保険組合 業務課長 **福本 光伸**



さて、拓水の寄稿依頼があり、これと言って取り柄もないので、私事ですが、昨年の8月15日の出来事から現在についてお話しします。

昨年の8月15日の病院での検査で異常が見つかり、前日まで毎晩ビール(晩酌ではなく、風呂上がり)を欠かさず飲んでいましたが、その日を境に突然のドクターストップとなり禁酒生活となった。さて、始めは検査の異常は間違いじゃないのかという程のショックで飲む気にならなかったが、さすがに1週間も経つと習慣というのか、ビールが恋しくなる。以前に1週間程度の禁酒はしたが、この生活がいつまで続くのか分からない中、どのように紛らわすかと悩み、最初はお茶を飲んだり、コーヒを飲んだりしたが、やはりビールを飲んだという気持ちが良い。ということで「せめて1本だけでも」と、ノンアルコールビールでビールを飲んだ気になり、その後は、つまみの代わりに甘いものにしてみた。同じものばかりでは流石に飽きるので、色々と品を変えて行くうちに、スーパーに行っても、酒類ではなくて、甘い物の売り場へ足が向くようになった。

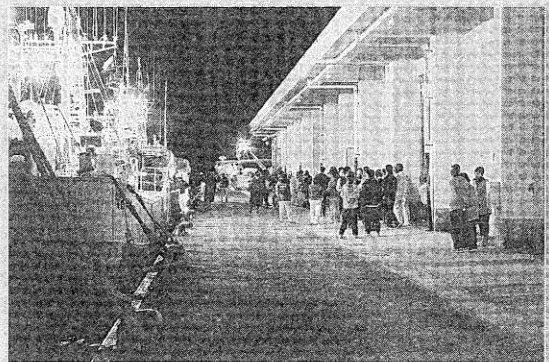
それが習慣というものだろうか。当初は非常につらかったが宴会でもノンアルコールビールで過ごせるようになった。もしかしたら今飲んでるノンアルコールビールも他の健康飲料に替えれば不要になるのではないかと思ったりする。しかし流石に全て甘党になれる訳もないし、そうなれば何か寂しい。この際に酒をやめてはという貴重な意見もお聞きする中、漸く医師からは「乾杯程度ならいいよ」と言われているが、来年早々の診察で完治という診断をもらうまでは、絶対に飲まないという気持ちで頑張るつもりである。完治となれば、徐々に(一気かも?)毎晩のビールが復活するのではないか。しかし、そうなるはこの1年数ヶ月の禁酒生活の良い習慣は一体どうなるのか。以前のように毎晩飲むのか、このまま飲酒をやめるか、完治した時の自分自身の行動が楽しみなような不安な思いでいっぱいです。

皆さんもお身体にはくれぐれもご注意いただき、悪しき(愛しき)習慣には気を付けましょう。

## CONTENTS

No.709 November. 2015

- 2 ようこそ
- 3 松葉ガニ漁解禁  
第35回 全国豊かな海づくり大会富山大会
- 4 淡路市久留麻で“かいぼり”  
摂播漁青連 今年も関学生協祭へ
- 5 神戸沖埋立処分場を見学
- 6 兵庫県における漁獲量の減少要因と今後の対策について
- 7 平成27年度 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム  
海難事故をなくそう
- 8 大輪田塾だより
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う  
「たじま魚(とと)カツバーガー」昭文社まっふる賞を受賞



表紙の言葉

### 「ズワイガニ漁解禁」(新温泉町)

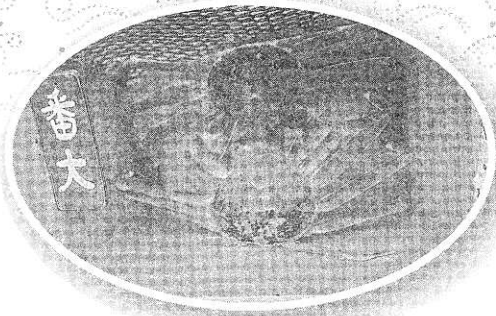
(写真撮影: JF浜坂 中村吉志さん)

富山から島根までの各府県で一斉に解禁されるズワイガニ漁。

この解禁を前に、家族が漁業者らを見送りに来ている様子を捉えた写真です。

夜の闇に、眩しいばかりの光を放つライト、忙しく出漁準備に追われる漁業者、それを見送りにきた大勢の人たち。解禁日は特別な日だということが分ります。

さあ、待ちわびたズワイガニ漁が解禁しました。



### 松葉ガニ二漁解禁!! 「解禁を待ちわびた各浜は賑わう」

ガニ、メスガニともに昨年をやや下回る前年比約91%となりました。初日の但馬地区全体での水揚げ量は、オス約1億4千4百万円超となりました。

この漁の操業は来年3月20日まで行われますが、資源保護の取り組みとしてメスガニ（セコガニ）は12月31日まで、若マツバガニ（ミスガニ）は1月20日から2月28日までと操業期間を短縮しています。

いよいよ解禁となりました。今漁期の豊漁と安全操業を祈念します。

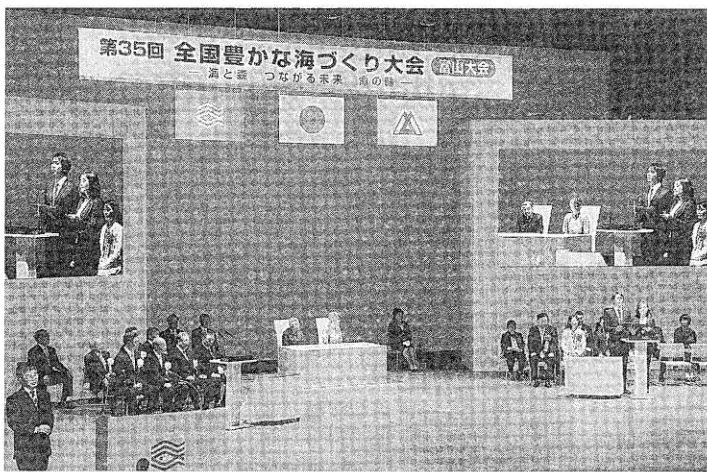


日本海の冬の味覚、ズワイガニ（松葉ガニ）漁は、富山県から島根県までの1府6県で11月6日（金）に一斉解禁となり、日本一の水揚げを誇る兵庫県でも、JF但馬、JF浜坂所属の沖合底曳船49隻が次々に出港し、解禁の午前0時を待って一斉に網を投入しました。

初競りは同日午後から行われ、浜坂漁港では昨年の最高値を7万円上回る、雄ガニ一匹40万円の最高値を記録し、浜は大いに沸きました。柴山港では恒例の「松葉ガニ初せりまつり」が開催され、セコガニの味噌汁が振る舞われるなどし、解禁を待ちわびた観光客や地元住民らが大勢詰めかけ、賑わいました。

## 第35回 全国豊かな海づくり大会 富山大会

～テーマは「海と森 つながる未来 命の輪」～



天皇・皇后両陛下ご臨席のもと開催されました  
(写真提供：JF全漁連)

10月24日（土）、25日（日）の両日、「第35回全国豊かな海づくり大会 富山大会」が富山県内で開催され、同大会に併せた物産販売、企画展示、体験コーナーなどの関連行事も含め、約3万5千人の来場がありました。

式典は25日に射水市の高周波文化ホールで行われ、会場には天皇・皇后両陛下をはじめ、全国の水産関係者ら約1,100人が出席しました。式典では、大島 理森大会会長（衆院議長）が「漁業は就業者の高齢化や魚価の下落、燃料価格の高騰などで厳しい状況にある。この大会を契機に豊かな海を育むことの大切さや、水産資源の保護・管理への理解が全国に広がることを期待する」と挨拶され、石井隆一富山県知事は「豊かな



両陛下によるご放流の様子 (写真提供：JF全漁連)

『森・川・海』の環境を、未来を担う子どもたちにはしっかりと繋いでいきたい」と述べられました。

このあと、功績団体表彰、漁業後継者夫妻と県内小中学生による「富山海づくりメッセージ」などがあり、大会決議採択では、岸宏大会推進委員長（JF全漁連会長）が大会決議を朗読し満場の拍手をもって採択され、最後に石井富山県知事から次期開催県の吉村 美栄子山形県知事へ大会旗が引き継がれ終了しました。

海上歓迎・放流行事は、海王丸パーク（射水市）の特設会場で行われました。海上歓迎では、JF新湊青年部員らによる「ポンポコ舞」の披露や、同JFの漁船など8隻によるパレードがありました。続く放流行事では、両陛下から漁業後継者へクロダイ、アワビ、サクラマス、アマモのお手渡しがあった後、両陛下は招待者とともにキジハタ、ヒラメの稚魚を放流されました。

淡路市久留麻で「かいぼり」

(一財)兵庫県水産振興基金

JF森(森義政組合長)とJF飯屋(岡田光司組合長)が農業者と協働し、平成20年度からはじめている「かいぼり」。ため池の栄養を海へ流すことはもちろん、貯水量増加や堰堤のメンテナンスのほか、外来魚の駆除も行え、農業のみならず防災や環境面の効果でも注目されています。



豊かな海を取り戻す取り組みは今後も続きます



長い年月をかけて堆積した泥に苦労しました

今年、10月13日(火)、14日(水)に淡路市久留麻の「加太池」で行われ、淡路島内では今年度初めての取組みとなりました。池は周囲約500メートル、貯水量約3万9千立方メートルの大きさで、両JFの漁業者や地元農業者ら約80名は、水を抜き、魚を取り上げたり、道具を使って泥を掻き出したりしました。池の底には約2m

以上もの泥が堆積していたため、埋もれた底樋を探しながらの作業となりました。関係者によると、この池では少なくとも30年以上の間、かいぼりが行われていないのではないかとのこと、メンテナンスする良い機会となったようでした。かいぼりは、学校教育の場にも取り入れられるなど、淡路島全体の取り組みとして大きく発展しており、今年5月に公開された映画「種まく旅人」にうみの郷」で取り上げられるなど、活動の拡がりに期待が集まっています。

地産地消で新鮮美味をアピール  
撰播漁青連 今年も関学生協祭

(一財)兵庫県水産振興基金



今年も大盛況でした!

タココロッケやアジフライなど200食を完売しました。又、学生会館食堂では人気のLOVE SEA丼シリーズから、ハモフライが限定100食/日で提供されましたが、ふんわり柔らかいフライに秘伝(?)のたれをかけたポリュームたっぷりのはきは早々に品切れになりました。なお、来月は小ダコ(JF西二見)と小アジ(漁連)の天ぷら丼をメニューに加えてもらう交渉も進んでいます。既報の通り、同連合会は2年前から同大学文学部 田和 正孝教授(大輪田塾講師顧問)の配慮で、ゼミ学生と消費流通の意見交換や魚食文化に関する情報発信など交流活動を続けており、ゼミ生の皆さんも実際に漁協で魚の水揚げやセリ現場を見学したり、10月20日(火)から始まった関西学院大学生協祭に、今年も撰播磨地区漁協青壮年部連合会から大西 正起会長ら役員ほか13名が出展参加し、兵庫の漁業や魚食文化の向上などPRしました。出展した21日(水)はフライヤーなど機材を持ち込み、

地域漁業への関心を深めています。また、同連合会の活動には他の大学も教育的視点と地産地消文化の側面から大変関心を寄せられ、大西会長や事務局は本業兼務で超多忙の日々が続いています。漁業者自ら、生の声を学生達に伝える素晴らしい活動をJFグループ兵庫全体でサポートしたいものです。



今年、PR用に作った大漁旗とのぼりを囲み記念撮影



# 神戸沖埋立処分場を見学

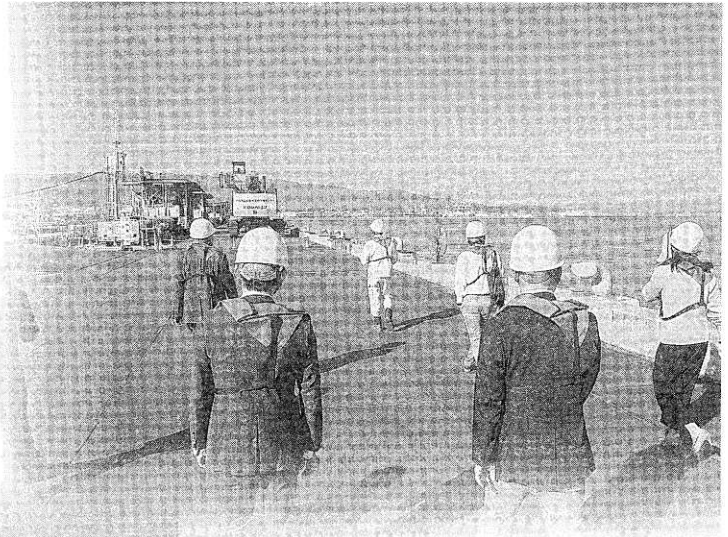
～瀬戸内海環境保全協会賛助会員研修会～

(一財) 兵庫県水産振興基金

(公財) 瀬戸内海環境保全協会(会長・井戸敏三兵庫県知事)は、毎年、瀬戸内海環境保全協会賛助会員研修会として、瀬戸内海における様々な環境保全の取り組みなどの現場視察を行っています。

今年度は11月5日(木)に神戸市内で行われ、兵庫県をはじめ瀬戸内海沿岸の県・市・企業などから参加した約40名は、大阪湾広域臨海環境整備センターと(株)神戸酒心館の2か所を視察しました。

最初に訪れたのは大阪湾広域臨海環境整備センター(兵庫建設事務所(神戸基地))で、近畿2府4県から出る廃棄物の埋め立て処分を



大阪湾内の4か所の処分場で行っているうちの1つでした。神戸基地は、陸側にある広さ1万5千平方メートルの敷地に県内外から持ち込まれる廃棄物を受け入れ、神戸沖埋立処分場へ運ぶ船に乗せる作業を行っています。説明の後、基地内を見学した参加者らは、船で神戸沖埋立処分場に向かいました。処分場は東西約550メートル、南北約1、600メートルで荷揚げバース4か所、運搬用コンベア、ダンプカーのほか、内部の海水を浄化し海へ放水する浄化施設を備え、平成13年12月から受け入れています。参加者は説明を聞



すでに7割近くまで埋まってしまった処分場



酒造りについて学ぶ良い機会となりました

きながら、盛んに写真に収めて、その大きさに驚いていたようです。ただ、この処分場も既に約65%が埋め立てられ、このままでは20年足らずで受け入れ出来ないとの話がありました。

このあと、神戸市灘区にある(株)神戸酒心館を訪れ、酒造りについて学びました。灘五郷の御影郷にある同社は、江戸時代の創業以来、ずっと手作りによる酒造りを守り続け、清酒「福寿」は世界でも高い評価を得ています。この酒造りに欠かせないのが、六甲山系から流れ出る日本百名水の1つ「宮水」であるとのこと、自然の恵みと人間の技が創り出す日本酒に理解を深めました。

# 兵庫県における漁獲量の減少要因と今後の対策について

## (一財)兵庫県水産振興基金

瀬戸内海環境保全特別措置法の一部改正法が9月25日に成立しました。兵庫県水産振興基金は法改正の動きにあわせて、平成24年度から26年度の3年間にわたり1990年代後半から顕著になった本県瀬戸内海の漁獲量の減少について、県立水産技術センターに委託して状況調査を行いました。今後の議論の参考に供するため、その結果の概要を次のとおり紹介します。

本県瀬戸内海における漁獲量は、1990年代前半までは年間6～7万トンのレベルにあったが、近年では3～4万トンと半減している。この急激な減少の要因を漁獲実態と水質環境の関係から分析した結果、海水中の溶存無機態窒素(DIN)濃度と漁獲量の変動には強い同調性が認められたことから、DIN濃度の低下が漁獲量の減少要因である可能性があるとの結論になった。

陸域からの全窒素の発生負荷量は1990年代中頃以後減少しており、それに伴い、近年本県瀬戸内海のDIN濃度の低下は著しく、2010年以降の濃度は1990年代前半の約2分の1になっている。DIN濃度の低下が海域における生態系の基礎である植物プランクトンの発生を減少させ、これが漁業資源の減少要因となっている可能性が推察される。

なお、海水温の上昇のほか、砂の減少などデータ不足により現時点では評価できていない項目があることにも留意する必要がある。

その他、漁獲量の減少要因と考えられる項目の動向は次のとおり。

- 乱獲：1990年頃から週休2日制や体長制限など漁業者の資源管理行動は定着している。
- 海面埋立：主に1970年代を中心に行われた埋立は、その後法規制により厳しく抑制されている。
- 底層DO：播磨灘の底層溶存酸素飽和度は、1995年頃以降悪化している傾向は見られない。
- 赤潮：大阪湾、播磨灘の赤潮発生件数は、1990年代以降それぞれ20～30件前後で概ね横ばいで推移している。

海洋生物の棲み場所を消失させた海面埋立は、その後の漁業生産に持続的な影響を与えていると考えられるが、漁獲量や環境データの時系列的な分析から、少なくとも1990年代後半からの急激な漁獲量の直接の減少要因ではないと推察される。また、1990年前半の漁獲量は現在の2倍程度あったが、DIN濃度以外の他の漁場環境要素は現在と大きな違いはなく、赤潮の発生頻度も変わらない。

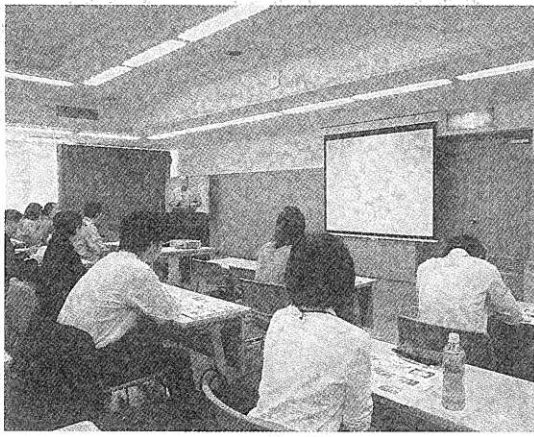
したがって、漁業資源回復の1方策として1990年代前半の陸域からの全窒素発生負荷量を目標とした栄養塩管理(DINの管理)に取り組むべきである。ただし、進めるにあたっては、海洋環境のモニタリングと順応的管理の考え方は必須である。また、豊かな海を実現するためには、栄養塩管理(DINの供給)とあわせて、生物の生息場所である干潟、浅場などを確保することが重要である。

豊かな海実現に向けての具体的な取組みは、次のとおりである。

- 1 栄養塩管理運転(窒素の供給)
  - ・浄化センターの栄養塩管理運転
  - ・湾奥部の停滞水域の解消(栄養塩の円滑な拡散)
  - ・ため池のかいぼり
- 2 多様な生息場所の確保
  - ・干潟、浅場、藻場の保全と再生
  - ・護岸の改善、増殖場の造成
- 3 その他
  - ・二枚貝類の増殖

平成27年度

# 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム



多彩な内容の研修がありました

(公社)瀬戸内海環境保全協会(井戸敏三会長)は、今年度の「瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム」を10月21日(水)〜23日(金)にかけて岡山県で開催しました。このプログラムは、瀬戸内海沿海の自治体や企業などで環境保全に関する業務に携わる人を対象に環境保全活動の強化・拡充に係る専門的知識の習得を図るものです。今年約30名の参加となり、9月末に「瀬戸内海環境保全特別措置法」改正法が可決成立し、時宜を得た研修となりました。

研修は、広島大学 松田 治名誉教授の基調講義「大きく変わる瀬戸内海の環境管理」をはじめ、干潟・藻場といった自然環境や生態系について、排水処理技術、岡山県の環境への取組みなど、多角的に

## JF兵庫漁連 (一財)兵庫県水産振興基金

瀬戸内海の環境について考える内容でした。また、2日目には現地研修として備前市のJF日生町を訪れました。同JFや県担当者からアマモ場再生の取組みについて説明を受けた後、アマモ場海域の現地見学に行きました。アマモは夏場に枯れてしまうため、この日は水面下に揺れるアマモの群生は見る事が出来ませんでした。干潟に打ち上げられた白く枯れたアマモの数や、甲殻類の住処と思われる穴、ツノガイ等の無数の貝類が確認でき、豊かな生態系を取り戻しつつあると感じました。

最終日には、参加者は5班に分かれ、それぞれ与えられたテーマについて討議、意見交換等を行いました。



アマモ場の機能を確認しました

# 海難事故をなくそう!

## ~安全をサポート~ 浮力合羽はお持ちですか?

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。

浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。まだお持ちでない方は是非!

※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

## ライフジャケットを着用しよう!

ライフジャケットを着用することで助かる可能性は飛躍的に向上します。自分自身のために、そして、家族のために是非、着用してください!



ライフジャケット(固型式・膨張式)と浮力合羽 モデル:平成27年度 大輪田塾修了生の皆さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は 所属JFか  
JF兵庫漁連資材部(078-942-9272)

までお問い合わせください

# 大輪田塾だより

## 平成27年度 大輪田塾修了式ならびに入塾式 開催

8名が修了しました

(二財)兵庫県水産振興基金

「幅広い視野をもった将来の水産業界をリードしていく人材育成」を目標に様々な研修・講義を行っている同塾は、毎年、この時期に修了・入塾式が執り行われています。開設から10年を迎えた今年には11月2日(月)に兵庫県水産会館で「平成27年度大輪田塾修了式ならびに入塾式」が行われ、8期生2名、9期生6名が修了するとともに、新入生(11期生)として6名が入塾しました。

山田 隆義塾長(JF兵庫漁連会長)、県水産課 小林 孝司課長をはじめ、同塾運営委員、県・系



修了生の記念撮影  
(前列左から：中村さん、竹中さん、相田さん、山田塾長、赤穂さん、松本さん、山田さん、井田さん)

### 修了生の紹介

氏名(期)	所属
赤穂 雅敏(8期生)	JF林崎
桂 源直(8期生)	JF坊勢
松本 久進(9期生)	JF西二見
竹中 太作(9期生)	JF坊勢
相田 欽司(9期生)	JF仮屋
中村 吉志(9期生)	JF浜坂
山田 純(9期生)	兵庫県漁業共済組合
井田 覚(9期生)	兵庫県内海漁船保険組合

(敬称略・順不同)

統役職員など約50名が出席するなか、修了式では、修了生が一人ずつ山田塾長から修了証書を手渡され、「決意の言葉」を述べました。その後、10期生引野裕允さん(JF仮屋)からの「送る言葉」を受けた7名は決意を新たに卒業しました。(操業中のため欠席された8期生 桂さんには後日、修了証書が手渡されます)

続いて行われた入塾式では、新入生代表の長澤良治さん(JF姫路市)が力強く「誓いの言葉」を述べたのち、10期生 山中盛吉さん(JF一宮町)から歓迎の言葉が贈られました。式は山田塾長訓辞、来賓祝辞をもって終了しました。

このあと、関西学院大学文学部 田和正孝教授による記念講演「昔、瀬戸内漁師に学んだもの」来島海峡の「延縄漁」が行われ、塾生は当塾設立の経緯や取り組んできた内容、今後の展開などを聞き、気持ちを新たにしました。

修了生のこれからの活躍を祈念するとともに、11期生の今後の塾での頑張りに期待します。



入塾生の記念撮影  
(前列左から：森さん、長澤さん、山崎さん、小林課長、山田塾長、小嶋さん、川本さん、小柴さん)

### 入塾生の紹介

氏名	所属	漁業種類
長澤 良治	JF姫路市	貝類養殖・カゴ漁
森 陽祐	JF坊勢	漁協職員
小嶋 隆次	JF室津	貝類養殖
山崎 大輔	JF淡路島岩屋	船曳網
川本 洋	JF但馬	漁協職員
小柴佐王里	共水連兵庫県事務所	団体職員

(敬称略・順不同)



## 女性役員のますますの活躍に向けて

### JA兵庫中央会

JA兵庫中央会は9月11日(金)、神戸市内で「JA女性役員研修会」を開催しました。同研修会は、「JA女性役員として、より積極的に地域の女性の声を集約・発信する」をテーマに、JA女性役員がリーダーシップを発揮するためのノウハウを身に付け、一層の役割発揮に資することが目的。県内13JAで35人の女性役員が選任されている中、今回は10JAより27人が参加しました。

まず、ファシリテーションやリーダーシップについて、㈱ライフキャリアデザイン・アソシエイツの川端美智子さんから講義を受けました。その後、宮城県JAみどりの(宮城県)の佐々木みさ子理事から役員として心掛けていること等に関する報告を受けた後、グループに分かれて活発な意見交換を行いました。

最後に「明日から心掛けること」をグループで話し合う中で、「プレッシャーに感じる責務もたくさんあるが、自己研鑽と違って前向きに捉えたい」等の意見が出され、JA役員としての一層の活躍に向けて、意識を高め合いました。



模造紙に発言を書きとめながら意見交換する女性役員

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

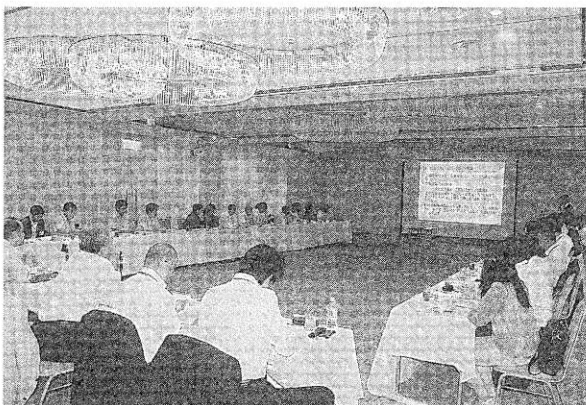
## 安心・安全な暮らしを支えるための活動の交流と連携を

### ～第27回 近畿地区生協・行政合同会議～

テーマ：「安心してらせる地域社会づくりをめざして」

8月31日、「第27回近畿地区生協・行政合同会議」が御所西京都平安ホテル(京都市上京区)にて開催され、兵庫県生協連から2名が参加しました。この会議は、福井・滋賀・奈良・和歌山・兵庫・京都・大阪の近畿2府5県の府県連生協連で構成する「近畿地区生協府県連協議会」の主催により開催。地域住民の安全・安心な暮らしを支えるために、生協と行政のパートナーシップを深めることを目的としています。当日は、厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室をはじめ、日本生協連、近畿地区2府5県の生協行政担当者および生協連役員職員の計43名が参加。全国の生協の概況報告が行われました。

はじめに、「新しい地域支援事業と生協への期待～これからの地域に何が求められているか～」をテーマに社会福祉法人 協同福祉会 理事長 村城 正 氏が特別報告。介護保険制度改正を背景に、高齢者福祉の観点から、これからの地域支援事業についての報告がありました。続いて、「おおさか災害支援ネットワークの活動について」、「奈良県内の生活支援サービス・活動のネットワークづくりに向けて」、「京都府 食の安心・安全推進条例の成果と今後」、「京都消費者契約ネットワーク(KCCN)の活動報告～サン・クロレラ京都地裁判決の意義～」、「消費者支援機構関西KC'sの活動報告～この間の活動報告と消費者裁判手続特例法について～」などのテーマに沿った報告が行われ、現状の問題点や活動の方向性などを共有。また、懇親会では情報交換を行い、交流をはかりました。



テーマに沿った活動報告に聴き入る参加者

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

お詫び

去る9月発行の拓水第707号で下記について表記に誤りがありました。関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正の上、お詫び申し上げます。

5頁下段 「平成27年度 兵庫県水産技術センター研究発表会 開催」の記事(2箇所)

誤) JF沼島女性部 中元はるみ部長 → 正) JF沼島女性部 中元はるみ部員



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 賀の祝

◆人の一生には、節目ごとに人生儀礼や通過儀礼という数々の「祝い事」がある。誕生して七日目「お七夜」を命名の日とし、百日目をモモカと呼んで「お食い初め」の膳を設える。米粒など食べられる筈もないが儀式として、歯固めに小石を添える所もある。「七五三」は明治以降に一般化されたが、それまでは武家社会の習わしで、三歳の男女の「髪置」を祝い、男子五歳で「袴着」を祝い、女子の七歳「帯解」を祝う。幼児の死亡率が高かった時代、厄除けと将来の健康を祈願し、無事な生長を神に感謝した日で、毎十一月十五日に行う。

◆「成人式」満二十歳、筆者は当時の住所地、東京・大田区民会館で祝賀を受けた。文房具を贈られたが詳細は忘れていた。その頃、貰った小冊子「若い人たちのために」は、赤茶けて触るとバラバラになりそうだが、富岡鉄斎「小黠大胆」の挿絵が懐かしい。最近の成人式では暴言無頼の若者が横行、式自体の存続に異議を唱える声も聴かれる。ハッピーマンデー制度の導入で、年によって日が変わるヘンな祝日であるが、社会的な責任感も確として身につけて欲しい。

◆賀の祝い。松尾芭蕉は三十八歳で翁（おきな）と自称、人からも翁呼ばわりされていたらしい。長寿の祝い事は、何歳から始まっているかと調べた。現存する最古の漢詩集「懷風藻」に「賀五八宴」とあるのは、掛け算で四十のことで四十歳に算賀の祝をした事を記している。平安朝の文献には、五十の賀、六十の賀と十年毎に行っていたとあり、当時は長寿が珍しく嬉しかったようだ。六十一歳で本卦返り、いわゆる還暦で「華甲」の祝い。七十の賀が「古希」、七十七歳の「喜壽」、八十の賀は「傘壽」、そして八十八歳になって「米壽」を迎える。

◆九十の賀を「卒壽」という。卒を崩した略字（卒）が九十となるための洒落なのだが、「卒」の字源は人の死を意味しており、祝う言葉として相応しいとは言えないと、文字学の白川静氏は「鳩壽」と改める事を提言された。「白壽」は九十九歳の祝いで、百歳に一画足りない白と洒落た積もりだろうが、「白」の字源が觸躰（しやれこうべ）の象形文字なのである。兼好法師が「徒然草」で「命長ければ恥多し、長くとも四十路に足らぬほどにて死なんこそ、目安かるべけれ」といった。筆者など何と言われるか。恥かきの連続のような生き様だったが、どうする術も知らず、歩いては立ち止まりを繰り返して生き永らえて来た。そして、白の下に土塊と戯れている此の頃なのだ。近年の寿命は長く伸びる一方で、百歳以上の人が六万人を超えたそう、長寿万々歳ではあるが…。

## 「たじま魚(とと)カツバーガー」昭文社まっふる賞を受賞!

### とっとりバーガーフェスタ2015～全国ご当地バーガーグランプリ～



10月11日(日)、12日(月)、鳥取県の大山で「とっとりバーガーフェスタ2015 全国ご当地バーガーグランプリ」が開催され、「たじまのさかな新商品・新メニューの開発推進チーム(※)」が、ニギスのカツを使って開発した「たじま魚(とと)カツバーガー」を出展しました。このバーガーは、但馬地域で水揚げされた新鮮なニギスのすり身をカツにし、フレッシュな野菜と香住高校海洋科学科が開発したトマトジュレソースを添え、地元のパン屋がつくったチーズの香り豊かなパンでサンドしたユニークなバーガーです。

フェスタ当日はあいにくの雨で肌寒い天気になりましたが、バーガーを求める大勢の人達で会場は大賑わいで、全国から参加した31チームの各ブースには長蛇の列ができました。ハンバーグやステーキなど肉を使ったバーガーが多い中、「たじま魚(とと)カツバーガー」は地味ながらも非常に好評で、「このバーガーが一番美味しかった」と2日連続で購入するリピーターもいて、フェスタ開催期間の両日も用意した各200個のバーガーが早々に売り切れてしまう嬉しい誤算となりました。

また、販売ブースにはチームメンバーのほか、香住高校の生徒や先生、香美町商工会青年部、そして「香美町とと活隊」も応援に駆けつけ、熱心に販売活動と但馬産水産物のPRを行いました。この結果、地域が一体となった取組体制と観光資源としての可能性が高く評価され、特別賞の「昭文社まっふる賞」を受賞しました。この賞は観光情報誌まっふるの誌面1頁に特集記事が掲載されるとの特典があり、地元水産物の消費拡大を目指す当チームとしては大満足の結果となりました。

「たじま魚(とと)カツバーガー」は、昨年9月から香美町内の「道の駅あまるべ」において好評販売中です。これを機に多くの方に但馬や兵庫県を訪れていただき、地元の良い水産物を食べてもらえればと思います。最後になりますが、バーガーの開発や出展にご協力いただいた皆様に、この誌面をお借りして厚く御礼を申し上げます。



#### ※たじまのさかな新商品・新メニューの開発推進チームとは

但馬産水産物を使用した新たな商品やメニューを開発・提案し、PR活動等を通じて消費拡大につなげることを目的に、漁協、県漁連、水産加工業、商工会、研究機関、行政機関等の実務者で構成されたチームです。

たじまのさかな新商品・新メニューの開発推進チーム

大石 賢哉(兵庫県但馬水産事務所)